

# 二松學舎 松苓會報



中洲 三島毅 (一八三〇—一九一九)  
二松學舎大学創立者。天保元年、現在の岡山県倉敷市に生まれた。陽明学者山田方谷に学ぶ。備中松山藩に仕え、激動の幕末を経験。明治維新後は、新政府の命をうけ大審院判事・検事、東京大学教授、東宮侍講等を務めた。  
明治十年十月十日、千代田区三番町(当時は麹町一番町)のこの地に、大学の前身である「漢学塾二松學舎」を創立。多くの子弟を育成し、漢学、東洋学の発展に尽力した。

## CONTENTS

- P2 松苓会長・理事長・学長ご挨拶
- P3 新校舎建設に伴う募金のお願い
- P4 平成25年度(第18回)松苓会定期総会
- P5 松苓会事業方針・活性化委員会答申
- P6 平成24年度松苓会決算・平成25年度予算案
- P7 幹事会・懇親会開催・幹事長ご挨拶
- P8 松苓会各支部活動報告  
東京都支部、富山県支部、長野県支部、  
岩手県支部、千葉県支部、山形県支部、  
神奈川県支部、北海道支部
- P12 卒業生の活動
- P13 文学賞受賞
- P14 平成24年度課外活動助成費を受賞して
- P16 大学だより
- P18 松苓会の歩み(1)
- P19 卒業生の写真から(寄贈写真より)
- P20 神奈川「文学散歩」の紹介・寄贈図書 他

# No.49

2013年10月1日



節目は発展の原動力

二松學舎松苓会  
会長 神津 賢一郎

二松學舎は昨年創立百三十五年を節目として将来を見直す長期ビジョンを公表し「2020 Plan」の策定をしました。松苓会も将来を見据えて、改革を進め発展の道を探って行かねばと思います。

節目といえば二十五年前の創立百周年を迎えたときの五か年計画(昭和63年)の策定は、かなり思いきったことに踏み込んでいます。その内容が松苓会報二号(一九八八年)と三号(一九八九年)に掲載されています。松苓会報三号に本部役員(座談会の内容には驚かされました。出席者は松苓会長小池良雄氏(11回)副会長小林日出夫氏(17回)幹事長佐佐木鍾三郎氏(15回)常任幹事雨海博洋氏(19回)司会事務局長杉村正夫氏(11回)で、主な点は五か年計画の柱として、一、文学部の体質改善、二、新学部の設置、三、文学部の沼南への統合、つまり大学運営の根幹について語っているのです。それはその筈、松苓会長は法人理事長、小林、佐佐木両氏は後の理事長、雨海氏は後の学長になられた方々で皆法人役員、即ち二松學舎法人と松苓会は表裏一体だったので。

法人理事長が松苓会長を兼ねた時代は終り、今は車の両輪として大学発展に寄与しています。大学が節目ごとに将来を見据え、計画策定しているように松苓会も節目を大切にしなければならぬと思います。二松學舎が塾から学校へと発展して最初の卒業生を出したのが昭和六年、そして「松苓会」が発足。やがて八十五年を迎えようとしています。この節目を機に、過去をふり返り、どんな歩み方をしてきたか総括し、これからどうあるべきか、発展する将来に向けて、意義ある八十五周年の記念行事にしましょう。



学校法人 二松學舎  
理事長 水戸 英則

鉄杵を磨く精神で教育の質的転換を!

二松學舎大学の更なる発展を期すべく長期ビジョン「N2020 Plan」を定め、この程五年間のアクションプランを作成、大学の諸事に係わる充実・改善のため、二四の課題の実現に向けて様々な取り組みを行っております。

その課題の一つとして、九段集約があり、今年度から、全ての授業を九段キャンパスで展開しており、教育環境の更なる充実を図るため、靖国通り沿いに新たに大学新校舎を近く着工いたします。新校舎は、教室・学生ラウンジ等の施設を設置、また、学生の満足度向上のため、既存校舎についても数々の整備を実施し、新館完成を以って、大学九段キャンパス整備は一段落となり、正にハード面が完備されます。

大学と松苓会は而二不二

二松學舎大学 学長 渡辺 和則

二松學舎大学はスモール・イズ・ビューティフルという言葉がぴったりな大学です。小規模であることも然る事乍ら、時勢に掉さすことなく、ずっと一業に徹してきたところがビューティフルです。またそこに二松學舎大学の強みがあります。

二松學舎大学は無名有力を善しとする、知る人ぞ知る大学として、世に知られています。が、しかし今後は有名有力の大学に変わっていくことも重要です。そのためにいま二松學舎大学にとって必要なことは、変えることのできないものを受け容れる冷静さと、変えべきものについて、

それを変える勇気を持つこと、そしてこの両者を識



残るはアクションプランに盛り込まれた、大学教育の質的転換を図ることであり、次はソフト面の充実が課題です。学生と教員が協働して、カリキュラムのナンバリング等更なる整備を行い、またシラバスを学生が学修しやすい形、学修計画書に足りうるように、

改定していくこと、また教育方法についても、長期ビジョンに謳っている人材像「グローバル化や知的基盤社会化が進む中で、自ら考え、判断・行動し、様々な分野で活躍できる人材、社会に貢献できる人材」を育成して行くため、アクティブラーニングやPBL「課題解決型授業」等の教育展開を通じて、学士課程4年間で、履修科目の基礎・専門的知識に加え課題解決力、想像力、社会的能力など社会適応力を学生の身に付けてやる必要があります。その結果本学卒業生が更に活躍し、名声が引上げられる好循環を生むことが肝要です。今後とも、皆様のご支援・ご助力をお願いする次第です。

別することのできる智慧を活かすことです。

長期ビジョン「N2020 Plan」は学生数五千名規模の大学を目指すことを謳い、またアクションプランには新学部設置が明記されています。それに基づき新学部(収容定員四〇〇名)設置に関する具体的な検討がこの十月から始められます。二松學舎大学は規模がもう少し大きければ、教育研究活動の範囲が広がるだけでなく、本学の得意とする教育研究がさらに深化発展すると期待されます。

二松學舎大学と松苓会は二つにして二つならずの而二不二です。卒業生にとつて母校は常に近くにあって思う存在でなければなりません。大学にとつて卒業生は大学存立の基盤であり、最も頼もしい後援者です。それに松苓会の活動の活性化は大学発展の契機になります。そんな思いで私は各地の松苓会支部総会に出席させていただいております。支部総会には是非お誘い下さい。



靖国通りに建設予定の4号館（完成予想図）

**松苓会は、  
4号館建設を  
支援しています。  
募金に御協力  
ください。**



## 大学新校舎建設に伴う募金のお願いについて

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は本学の教育研究活動にご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、創立136周年を迎える本学は、更なる発展を期すべく長期ビジョン「N' 2020 Plan」を定め、このほど5年間のアクションプランを作成して24の大課題を抽出、その実現に向けて様々な取り組みを行っております。

また、今年度からは、大学の授業を九段キャンパスに集約し展開しておりますが、教育環境の更なる充実を図るため、この度、九段地区の靖国通り沿いに新たに土地を購入し、3号館に続く大学新校舎を建設することとなりました。

新校舎は本年秋にも着工し、教室・学生ラウンジ等の施設を設置する予定です。また、学生の満足度向上のため、既存校舎についても数々の諸整備工事を実施し、本学の中核となる大学九段キャンパス全体の更なる整備・充実を図ってまいります。

このような状況下、本学の教育事業を永続的に発展させるためには、その財政基盤の充実が重要であり、平成19年度から「二松學舎教育研究振興資金」の募金制度を設け、毎年一定規模の寄付金収入を確保することに努めているところです。

従いまして、時節柄まことに恐縮ですが、今般大学新校舎建設資金の一助とするために皆様からの募金を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

### <納入方法>

寄付金の納入は、本学のホームページからインターネット募金窓口

(<http://www.nishogakusha-u.ac.jp/news/bokin2.htm>) を経由したクレジットカード決済・コンビニ決済・ペイジー決済・インターネットバンキングによるお振込み、若しくは専用振込用紙による銀行振込・郵便振替をご利用頂けます。

専用振込用紙をご希望の方はご郵送致しますので、下記担当部署までご連絡ください。

[寄付金担当窓口] 二松學舎大学 企画・財務課 TEL. 03-3261-1298 (月～金：9：00～16：30)

### <所得税控除について>

この寄付金は「特定公益増進法人」に対する特定寄付金となり、寄付翌年の確定申告の際、所得税法上の寄付金控除の優遇措置が受けられます。

※確定申告についてのご相談は、所轄税務署へお問い合わせ下さい。

# 平成二十五年年度 第十八回松苓会定期総会

平成二十五年六月十五日

平成二十五年年度松苓会定期総会が六月十五日(土)の十三時から二松學舎大学十一階会議室で開催された。

来賓として水戸英則理事長の代理として野田恒雄常任理事、渡辺和則学長をお迎えして行われた。本部役員をはじめ全国から二十八支部の支部長が参加した。

出席者は次のとおりである。

### 来賓

- 野田 恒雄 常任理事  
(相談役 水戸理事長代理)
- 渡辺 和則 学長(相談役)
- 佐佐木 鍾三郎 顧問
- 末吉 榮三 顧問

### 本部

- 神津 賢一郎 会長
- 大地 武雄 副会長
- 廣田 克己 副会長

### 監事

- 磯 水絵

### 常任幹事

- 千葉 仁 (宮城支部長)
- 新井 喜義 (群馬支部長)
- 手島 茂樹
- 井上 和男 (東京支部長)
- 小町 邦明
- 助川 忠弘

### 幹事

- 山崎 郁紀 (山形支部長)
- 齋藤 裕 (兵庫支部長)
- 武内 昭徳 (香川支部長)
- 大西 邦美 (大分支部長)
- 加茂 忍 (沖繩支部長)
- 金城 健一 (沖繩支部長)
- 五十嵐 清
- 高柳 幸雄
- 志村 孝

### 支部長

- 増井 義昭 (北海道)
- 宮本 義孝 (岩手)
- 北村 博 (福島)
- 寺内 進 (栃木)
- 町田 哲夫 (埼玉)
- 辻 将一 (千葉)
- 平野 光治 (神奈川)
- 板山 俊介 (山梨)
- 坂井 福作 (新潟)
- 小島 貴雄 (富山)
- 中道 佳宏 (福井)
- 山本 昇平 (静岡)
- 小谷 章公 (鳥取)
- 江角 仁 (島根)
- 平岡才二郎 (広島)
- 大倉 明子 (徳島)
- 上田 善達 (愛媛)
- 坂本 和生 (高知)
- 永淵 道彦 (福岡)
- 黒瀬孝志郎 (長崎)
- 佐藤 修

### 事務局

(順不同 敬称略)

## 定期総会次第

- 一、開会の言葉
  - 二、物故者への黙祷
  - 三、議事録の確認
  - 四、決議定足数の報告
  - 五、会長挨拶
  - 六、理事長・学長挨拶
  - 七、議長選出・書記任命
  - 八、議事録署名人の指名
  - 九、議案審議
    - ①平成二十四年度事業報告
    - ②平成二十四年度収支決算報告  
並びに監査報告
    - ③平成二十三年卒業生以前の終身会費について
    - ④他大学からの大学院生の終身会費の代理徴収について
    - ⑤平成二十五年事業方針  
並びに計画(案)
    - ⑥平成二十五年年度予算(案)
    - ⑦監事(一名)の選出について
    - ⑧事務文書の取り扱いについて
    - ⑨その他
  - 十、新役員紹介
  - 十一、情報交換
- (各支部の活動報告等について)

総会は小町常任幹事の司会により、開会が宣言された。続いて物故者への黙祷があった。

事務局から、構成委員六十五名中、出席者三十九名、委任状十七名の合計六十二名で総会が成立するとの報告があり、確認された。

議長に廣田副会長を選出の後、書記に高柳幹事・志村幹事が任命された。議事録署名人には、新井常任幹事、助川常任幹事が指名された。

### 議案 審議

次第に沿って議案の審議があり、一号議案から九号議案まで異議なく承認された。

三号議案については、これまで不明確な点があったため、十三年度以前の卒業生については、一律一万元の納入に改善した。

四号議案については、他大学から入学の大学院生からも終身会費を代理徴収することとした。

七号議案については、監事が急逝したため、新監事に、椎木伸治氏(三十七回卒)を選出した。

八号議案については、昨年度法人の内部監査を受け、適正な会計処理ができるよう支部運営に関する各種助成費の見直しを図った。提案は承認されたが、弾力的な取り扱いについては、本部でさらに検討することにした。

## 平成二十五年度 松苓会事業方針

二松學舎大学で学んだ学生が、大学を卒業すると同時に松苓会会員になる。本学を単なる出身校ではなく、母校であるという思いに至る抛り処としての存在感のある松苓会にしたい。卒業生一人一人を大切に、卒業生のための松苓会とすべく諸事業を改革し推進する。

1. ホームカミングデーは、第九回目となる。一昨年から在学生の活動を見ることができ、「二松學舎祭(創縁祭)」の開催期間中に変更した。その結果、若い卒業生を中心に参加者が年々増加して、昨年度百九十名近くの参加者になり状況を呈してきている。今年度も11月2日(土)に行う予定であるが、会場の収容能力や内容などに問題が生じているため、今後大学の協力を得ながら実行委員会で検討する。
2. 「松苓会報」については、今年度は第四十九号(十月上旬)と第五十号(三月中旬)を発行する。
3. 支部育成・在校生支援については、次の通りとする。
  - (1) 支部助成費について
  - (2) 今年度は、活動等を希望する支部と連携を取りながら、総会

等の開催支援等を実施する。

(本年度重点支援支部)

富山県、福井県、石川県

- ② 支部運営助成費については、例年通り総会会場費と通信費と、新しく封筒代(印刷代を含む)を助成する。

(2) 松苓会奨学金については平成二十三年度より貸与とした。今年度も三名まで貸与する。

4. 県人会については、ここ数年開催されていない。卒業生の活動の支援を充実することがより現実的で、ネットワークづくりにも有効であるため、今年から県人会に換えて卒業生の活動(同期会、ゼミ会、サークル会等)を支援することとした。

【助成金】 1万円

5. 今年は、昭和六年に松苓会が発足してから八十二年目になる。平成二十八年の創立八十五周年に向けて、記念事業の実行委員会を立ち上げて取り組む。記念事業としては、記念式典、記念誌発行、顕彰等を考えている。

### 二松學舎松苓会 活性化委員会答申について

二松學舎松苓会活性化の施策を検討する活性化委員会は、平成二十二年に設置され、平成二十四年度までの三年間にわたって合計十二回の会合を開催して検討を重ねてまいりま

した。

ここに、二松學舎松苓会活性化への答申を行うものであります。

辻 将一(千葉県支部長)

### 答申内容(骨子)

1. 松苓会の組織について

松苓会全体の発展のためには本部の活性化が不可欠である。例えば、松苓会報の編集については、若手の意見が反映されるシステムにするため人材の発掘・育成の観点からも柔軟な組織を検討すべきである。

2. 財政基盤の確立について

松苓会の財政基盤は、卒業生からの終身会費によって支えられているが、財政基盤の安定のために以下の施策を検討すべきである。

① 終身会員の増加について

ホームカミングデー案内の中に、未納会員へ終身会費納入についての文書を同封するなど、機会あることに依頼を促進する。

② 会員からの会費だけでなく寄付制度を設ける。

③ 会報への広告掲載などを検討する。

3. 大学及び他機関との

連携について

大学父母会・両附属高校同窓会(九段・松友会、柏・松柏会)との連携を図る。

4. 会員情報の正確な把握について

松苓会員は、現在二万五千名

を超えているが、住所不明等の卒業生数が増加している状況である。

そこで、各支部との連携を密にするとともに、今後は、大学のゼミナール・部活動OB会・同期会などとも協力して会員住所など正確な把握に努めることが必要である。

5. 支部活動の活性化について

(1) 支部活性化のためには、支部総会を開催することが肝要である。

そのためには、支部総会報告のなしい支部の実態を本部が速やかに把握するとともに、総会開催のための施策を検討すべきである。なお、会員減少支部への支援についても検討すべきである。

(2) 支部活動を支援するためにも、松苓会のホームページの充実が必要である。



平成 25 年度 定期総会 (大学九段 1 号館 11 階)

平成25年度松苓会予算

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

◎収入の部	(単位：円)	予算額
前年度繰越金		1,627,621
入会費		3,600,000
小計		5,227,621
会費		
新卒者終身会費		11,175,000
既卒者終身会費		700,000
小計		11,875,000
利息		5,000
寄付金・雑収入		300,000
収入の部合計		17,407,621
◎支出の部		
事業費		
卒業生懇親会費		800,000
松苓会報等発行		
印刷・制作費		1,300,000
発送費		400,000
「茯苓」発行費		0
小計		1,700,000
支部助成		
支部運営助成費		1,300,000
支部報発行助成費		300,000
支部強化助成費		100,000
同朋会・ゼミ会等助成費		200,000
小計		1,900,000
母校支援事業		
教育振興資金助成費		2,000,000
教育事業後援費		150,000
松苓会奨学金		1,400,000
教育研究大会助成費		50,000
小計		3,600,000
在学生支援事業		
学園祭助成費		50,000
課外活動助成費		200,000
卒業記念品		0
小計		800,000
事業費合計		10,500,000
運営費		
会議交通費		100,000
旅費・交通費		1,700,000
通信用品		400,000
印刷品		100,000
消耗品		500,000
消耗品		200,000
消耗品		80,000
消耗品		50,000
消耗品		20,000
消耗品		50,000
消耗品		0
小計		3,200,000
特別会計		
周年事業積立金		1,500,000
終身会員積立金		2,980,000
小計		4,480,000
予備費		677,621
合計		17,407,621

平成25年度松苓会特別会計予算

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 松苓会基金	(単位：円)	予算額
前年度繰越(7月までの運営資金)		2,000,000
(2) 周年事業積立金		
平成24年度からの繰越		6,516,565
平成25年度繰入		1,500,000
利息		2,000
合計		8,018,565
(3) 終身会員積立金		
(収入の部)		
平成24年度からの繰越		56,520,445
平成25年度繰入		2,980,000
利息		10,000
手数料(残高証明)		△840
合計		59,509,605
(支出の部)		
終身会員サービス費(会報発送費1回分)		640,000
(4) 松苓会奨学金		
(収入の部)		
平成24年度からの繰越		2,291,332
平成25年度繰入		1,400,000
平成25年度貸与返還金		515,000
利息		1,000
合計		4,207,332
(支出の部)		
平成25年度奨学金貸与		1,395,000

会計監査報告

平成24年度(2012, 4, 1～2013, 3, 31)の会計執行状況について、監査の結果諸帳簿の整備並びに金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成25年 5月15日

松苓会監事 磯 水絵 ㊟  
松苓会監事 ㊟

平成24年度松苓会会計収支決算

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

◎収入の部	(単位：円)	決算額
前年度繰越金		449,421
入会費		3,605,000
小計		4,054,421
会費		
新卒者終身会費		10,680,000
既卒者終身会費		688,080
小計		11,368,080
利息		4,142
寄付金・雑収入		288,480
収入の部合計		15,715,123
◎支出の部		
事業費		
卒業生懇親会費		828,881
松苓会報等発行		
印刷・制作費		1,212,750
発送費		408,309
「茯苓」発行費		0
小計		1,621,059
支部助成		
支部運営助成費		1,237,657
支部報発行助成費		300,000
支部強化助成費		0
小計		1,537,657
母校支援事業		
教育振興資金助成費		1,000,000
教育事業後援費		100,000
松苓会奨学金		1,400,000
教育研究大会助成費		50,000
小計		2,550,000
在学生支援事業		
学園祭助成費		50,000
課外活動助成費		210,000
卒業記念品		0
小計		700,000
事業費合計		960,000
運営費		
会議交通費		86,320
旅費・交通費		1,690,695
通信用品		336,000
印刷品		79,910
消耗品		513,771
消耗品		242,067
消耗品		74,974
消耗品		43,800
消耗品		71,940
消耗品		44,080
消耗品		0
小計		3,183,557
特別会計		
周年事業積立金		500,000
終身会員積立金		2,848,000
小計		3,348,000
予備費		58,348
支出の部合計		14,087,502
◎収支差額		1,627,621(繰越金)

平成24年度松苓会特別会計決算

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(1) 松苓会基金	(単位：円)	決算額
周年事業積立金からの繰入収入		2,000,000
経常費への繰入支出		0
合計		2,000,000
(2) 周年事業積立金		
(収入の部)		
平成23年度からの繰越		8,015,304
平成24年度繰入		500,000
利息		1,261
合計		8,516,565
(支出の部)		
松苓会基金への繰入支出		2,000,000
◎収支残高		6,516,565(繰越金)
(3) 終身会員積立金		
(収入の部)		
平成23年度からの繰越		54,287,050
平成24年度繰入		2,848,000
利息		7,188
手数料(残高証明)		△840
合計		57,141,398
(支出の部)		
終身会員サービス費(会報発送費1回分)		620,953
◎収支残高		56,520,445(繰越金)
(4) 松苓会奨学金		
(収入の部)		
平成23年度からの繰越		1,967,998
平成24年度繰入		1,400,000
平成24年度貸与返還金		93,000
利息		334
合計		3,461,332
(支出の部)		
平成24年度奨学金貸与		1,170,000
◎収支残高		2,291,332(繰越金)

以上のとおり平成24年度会計収支決算について報告を致します。

平成25年 5月15日

松苓会会長 神津賢一郎 ㊟  
事務局 佐藤 修 ㊟

**二松學舎松苓会幹事会開催**

総会に先立って、幹事会が開催された。本部の三役・常任幹事・幹事・監事・事務局の二十名が出席し、総会の議案についての説明と、それに対する審議が行われた。

総会に提案する議案にたいして理解を得られ、短い時間の中で会は効率的に進行された。

出席者は以下のとおりである。

- |      |  |
|------|--|
| 会 長  | 神津 賢一郎   |
| 副会長  | 大地 武雄  |
| 副会長  | 廣田 克己  |
| 監 事  | 磯 水絵   |
| 常任幹事 | 千葉 仁・新井 喜義<br>手島 茂樹・井上 和男<br>小町 邦明・助川 忠弘<br>山崎 郁紀・齋藤 裕<br>武内 昭徳・大西 邦美<br>加茂 忍・金城 健一<br>五十嵐 清・高柳 幸雄 |
| 事務局  | 志村 孝<br>佐藤 修   |



松苓会幹事会 (大学九段1号館12階)

**総会懇親会の開催**

総会終了後、十三階ラウンジに場所を移して、会費制の懇親会を開催した。

大地副会長の司会により、神津会長の挨拶で始まった。乾杯は、当日参加者中最長老である末吉榮三顧問(十二回卒)をお願いした。末吉顧問が高らかに乾杯した後は、同窓の仲間が楽しく談笑しあう風景が見られた。

年に一回の定期総会で、北海道から沖縄まで、全国津々浦々の支部長が一室に会して語り合うことは、たいへん有意義なことであり、楽しいひとときとなった。



懇親会 (大学九段1号館13階ラウンジ)

**平成二十五年度 新役員**

- |      |              |
|------|--------------|
| 幹事長  | 小林 公雄 (文三十八) |
| 監 事  | 椎木 伸治 (文三十七) |
| 常任幹事 | 平野 光治 (文四十)  |
| 常任幹事 | 神河 秀春 (文四十七) |
| 常任幹事 | 高柳 幸雄 (文四十九) |

- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 常任幹事  | 菅原 義博 (文五十三)      |
| 常任幹事  | 高橋 映子 (文五十三)      |
| 幹 事   | 小町 邦明 (文四十九)      |
| 支部長交代 | 静岡県支部 永井陵次 (文三十八) |

**就任のご挨拶**



幹事長 **小林 公雄**

神河前幹事長が大学の要職に就かれ校務多端に  
より辞任したのをうけて、その後任の幹事長の職  
を担うこととなりました。大学第38回卒業です。本年3月に定年によ  
り二松学舎を退職いたしました。大学勤務中は大変お世話になりまし  
た。6月の総会でご紹介いただきました。微力ではありますが、神津  
会長の意向にそった松苓会運営に努めていきたいと思っております。

二松学舎松苓会は、昭和6年に、二松学舎専門学校第1回卒業生に  
より創設されました。第1回生には、大学で教わった石川梅次郎先生  
がおります。第2回生には松苓会会長を歴任した浦野匡彦先生(理事  
長・学長)、池田松郎先生(理事長)がおります。いずれも私が昭和  
45年3月に本学を卒業し、その後の大学勤務でお世話になった先生方  
です。松苓会本部の手伝いや大学の仕事を通して歴代の松苓会長や地  
方の支部長にも大変お世話になってきました。

今般、松苓会創設85周年記念事業の準備を進めるうえで、松苓会の  
歴史を振り返る機会が与えられ、創設時の卒業生の意気込みを機関誌  
や会則等で確認しております。第1回生や創設時の同窓生が、どのよ  
うな意気込みで松苓会を育ててきたか、また育てようとしてきたかを  
絶えず念頭に置きながら、これを現在の松苓会活動にどのようにか  
していくかを考えながら、会の運営に携わってまいります。宜しくお  
願い致します。

# 松苓会各支部活動報告

平成25年6月～8月

## 東京都支部

支部長 井上 和男

### ○浅草文学散歩

四月二十七日(土)、東京支部会員の研修と親睦を目的として、青山忠一名誉教授とともに浅草文学散歩を実施した。参加者は二十四名。東京支部会員の他、平野光治神奈川支部長や廣田克己松苓会副会長、忠友会(青山ゼミOB)からの参加者もあり、にぎやかな会となった。浅草寺雷門からスタート。普段何気なく見過ごしていたことなどにスポットをあてた青山名誉教授の解説を聞きながらの文学散歩は、浅草の歴史と文化を感じる一日となった。

### ○東京都支部総会

平成二十五年度東京支部総会は、六月二十九日(土)九段キャンパス1号館において午後一時三十分より開催した。

片山幹事長(50期)の司会で総会が開催され、井上支部長(42期)挨拶の後、畠山常任幹事(37期)が議長として選出され、議事が進行された。平成二十四年度活動報告及び会計報告を神河事務局長(47期)が、監査報告を菅原監事(53期)が行

い、承認された。また、平成二十五年度及び二十六年度の支部長・監事の選出について、井上支部長が再任、監事については大山監事(47期)が再任、神河事務局長(47期)が新たに選出された。次いで神河前事務局長より平成二十五年度活動案・予算案について説明があり、原案どおり承認され、総会が終了した。

引き続き午後三時より文学部松本健太郎専任講師による講演「メディアが陶冶する想像力の現在―活字・写真・ゲーム―」が開催された。歴史ある本学文学部の中では、新しい分野ともいえるメディア関係の内容について、動画や画像をスクリーンに映しながら熱心に講演され、受講者たちは興味深く聞きいていた。

午後四時十五分からは、会場を十三階ラウンジに移し、大淵常任幹事(50期)の司会で、懇親会が開催された。井上支部長の挨拶の後、来賓の廣田松苓会副会長の乾杯でスタート。千葉県支部より土屋誠事務局長、神奈川支部より片桐佐和子監査に参加していただき、和やかな雰囲気の中での会となった。佐佐木鍾三郎東京支部顧問(15期)も元気に参加され、二松學舎の歴史を語って

おられた。大いに盛り上がる中、時間の都合上、午後六時にお開きとなった。

参加者は総会・講演会が二十五名、懇親会が二十六名とほぼ昨年並みであった。

### ○今後の活動について

東京支部会員のより一層の懇親を図るべく、女性の細やかな視点で参加しやすい企画を、星野副支部長(42期)を中心とした女子会が立案。東京スカイツリー見学ツアーを十月六日(日)に開催する予定。

## 富山県支部(懇親会)

支部長 小島 貴雄(47回)

七月二〇日(土)。ホテルグランテラス富山で、三年ぶりに富山県支部の懇親会を開催した。梅雨明けを思わせるような真夏の強い日差しを浴びた蒸し暑い昼下がり、街中では高校野球県大会の熱戦の話題が繰り広げられ、一層の暑さを感じさせる日であった。

今年度は、松苓会本部において支部活動の活性化事業が取り組まれており、その一環として北陸三県が重点地区に指定された。富山県支部が



二松學舎大学九段1号館にて

手始めとして指名された経緯がある。五年周期を前提とした支部総会ならびに懇親会の、前倒しの意味合いの実施となった。

当日は、まず午後三時から、大学主催の大学説明会が、菅原淳子国際政治経済学部長・稲田篤信文学部教授の列席のもと行なわれ、大学の現状、募集要項の説明等とともに、現在大学が求める学生像が具体的にかつ丁寧の説明された。遠く離れた富山の地において、大学が魅力ある身近な存在に感じられた一時であった。立場を変えた視点に立つことができ、有意義であったと思う。

その後個別相談が行なわれ、各自の状況に応じた適切なアドバイスが行なわれていた。

午後五時三〇分から、同ホテル二階の和食「こし路」に場所を替え、新たに渡辺和則学長・廣田克己松苓会副会長を交えての、支部懇親会を行った。支部会員の参加者は、芳尾晴喜(前支部長)氏と山内寧氏と私の三名と少数ではあったが、富山ならではの山海の美味に舌鼓を打ちながら、数々の名(迷)酒の酔いに誘われて、青春時代の一時の東京(九段)生活に想いを馳せることができた。

語り合いの中では、富山県支部活性化の重要性と、北陸三県各支部間の交流と連携の大切さが指摘された。今回の松苓会本部や大学側の支援によって開催した懇親会におい



て、地域近隣の新たな人間関係を知らるとともに、同窓の絆の大切さを再認識することができ、県支部の意義深さを痛感した。そこで、まずは三年後の支部総会ならびに懇親会の開催に向けての互いの連絡を密にし、より多くの会員に参加を誘う呼びかけを進めていくことを確認し合った。そして同時に、微力ではあるが、二松學舎大学の魅力を発信することを誓った。



ホテルグランテラス富山・和食「こし路」にて

懇親会の締めは、廣田副会長による、二松學舎大学と松苓会のますますの発展を祈念した万歳三唱でお開きとなった。有意義な真夏の夜を楽しく過ごし、心地好い酔いのもと、再会を約束して家路に着いた。三年後が待ち遠しく思われる。

### 長野県支部 (支部総会)

支部幹事 江村 春彦

長野県支部総会が、去る平成25年7月28日(日)にホテル信濃路(長野市中御所岡田町)において開催されました。支部総会には、木村誠次先生にご出席いただきました。県内同窓会の出席者は、6名でした。

総会では、関保典支部長より二松學舎大学を中心とする法人の様子の報告を含めた挨拶があり、続いて五十嵐常任理事より135周年を迎えた学校法人二松學舎が目指す長期ビジョンに基づく大学院・大学・高等学校・中学校の具体的な活動、今後の計画についてお話がありました。議事については、平成24年度活動報告、会計報告、さらに平成25年度予算案が満場一致で承認されました。

総会終了後、木村校長より「附属中学校の現状」と題したご講演をいただきました。ご講演では、附属柏中学校開校に至るまでの経緯を具体的なエピソードを交えながらお話されました。また現在の中学校や高等学校の授業内容、学校生活、進路状況から、中学生、高校生の取り組み、保護者の考え方などにもお話が及びました。先生の気さくなお人柄や中学校・高等学校の将来を見据えた情熱を感じさせるお話に、参加者が引き込まれました。長野県では近年、私立公立の中高一貫校や中等教育学校が相次いで開校され、地域や保護者、児童の中間に、中学校からの選択の意識が広まり始めているところ



長野市・ホテル信濃路にて

です。

そのような意味においても、タイムリーな演題であり、関心をもって聴きすることができました。懇親会は、参加者が一人ずつ近況を述べ合う時間を設けるなど和やかな雰囲気が進められました。その中では、若い世代の参加や最近支部総会への出席がない同窓の方の話題が出され、支部の活性化、発展のための意見が交わされました。(参加者)

#### 〈法人関係〉

五十嵐 清(文44回・法人常任理事)

木村 誠次(文39回・附属柏中学校・高等学校長)

#### 〈長野県関係〉

関 保典(文35回・支部長)

清水 登(文42回・副支部長)

大工原明人(文42回・幹事)

征矢野達彦(文44回)

上平 徳男(文51回・会計監査)

江村 春彦(文57回・幹事)

### 岩手県支部 (支部総会)

支部長 宮本 義孝

去る7月28日(日)午前十一時から、岩手県支部総会を農林会館・第二会議室で行いました。出席者は7名でした。

県支部が昭和五十年に発足し、その時から毎回欠かさず出席していた会員二名が、今回、欠席されました。老齢と闘病の為です。支部活動

に前向きだった会員が、已むを得ぬ事情で参加できなくなるのは残念です。幸い今回は、三名の方が初めて出席してくださったので事無きを得ましたが、呼びかけに、もう少し工夫する必要があるように感じています。そんなことから、これまで個人情報保護により、会員名簿は総会出席者にしか渡していなかったのですが、欠席者でも、近況を知らせたり、会費を納入して下さる方には渡しただろうか、と話し合われ、四十名ほどに送付することになりました。名簿で同じ出身大学の卒業生であることを知れば、声を掛け、誘い合っ

### 千葉県支部 (支部総会)

事務局長 土屋 誠

連日、「高温注意報」が出る八月四日(日)、千葉県支部総会が「プラザ菜の花」(千葉市中央長洲)にて開催された。参加者数十八名。

総会は、午後一時半、前田康晴副支部長の開会の辞より始まり、辻将一支部長が挨拶した。辻支部長は、「昨年度から総会に記念講演を行うことになり、沢山の方にお集りいただいた。これからも支部活動の活性化に努めて参りたい。」と話した。続いて来賓の松苓会副会長・大地武雄氏が挨拶し、「会員数五千名の千葉支部の発展を心からお祈りする。」と述べられた。

次の議事に移り、議長に前田康晴副支部長を選出した。平成二十四年度活動報告、会計報告並びに監査報告と進み、次いで平成二十五年度活動計画案が上呈された。

いづれも無事承認された。最後に簡野泉副支部長が閉会の辞を述べ、終了した。

その後、記念特別講演に移った。今年度は、大地武雄教授による「唐詩の魅力―国語教材としての視点から」と題した講演である。

大地先生は、初めに「漢文教育の危機」について語られ、「指導要領改定により小中高と古典を重視する流れではあるが、大学入試の見直

し、教育免許法などの関係で大学生の漢文学習・研究への関心や実践力の低下が懸念される。」と話され、学校教育現場での取り組みに強い期待を込められた。そして、演題のお話に入った。およそ70分の講演であった。



千葉市・プラザ菜の花にて

午後四時、懇親会。会場をすぐ近くの卒業生竹内恵子さんが経営する「喫茶ヴォンヴィル」に移して行われた。中締めまで約三時間余り、異年齢の会員が和やかに語り合った。最終的にお店を後にしたのは、午後十時をまわった頃であった。

懇親会の中で、千葉支部顧問の浅井昭治氏(専18)が印象に残るお話をされた。二年前の東日本大震災のことである。県北部の都市にお住まいだった浅井氏は、御自宅の庭の土が放射能物質で汚染されていたため1mほど土を掘った。その土を自治体が集積してある場所へ運ぶのだが、それが山積みされている。これは特定の地域の問題ではない。日本人全ての問題なのである、と。(趣旨)

楽しい懇親会であったが、それだけに幅広い話題になり、時の経つのも忘れた。

### 山形県支部 (支部総会)

支部長 齋藤 裕

八月十日午後六時より、酒田市駅前ル・ポットフーで、松苓会山形県支部総会を開催しました。

総会では廣田克己松苓会副会長、渡辺和則学長よりご挨拶をいただいたのち、前年度事業報告並びに会計報告と、今年度事業計画案並びに会計案が提案され、承認、可決されました。

支部の課題としては、総会に多くの参加者を得られるような時期・時間・場所・内容等の検討、支部報の充実、地区ごと(分会)の会員相互の交流(昨年は新庄地区で初めての懇談会を開催)の活性化、などが挙げられます。

また、平成二十五年度の事業計画として、教職に就いている会員(高校・書道教諭)の教育活動を支援することを確認しました。具体的には、県内及び地区内で高校生対象の書道の講習会を開催するときに、運営費などの助成をする計画です。また、その際、大学の書道科教授を講習会の講師として派遣して



酒田市・ル・ポットフーにて

いただけることを確約しました。この講習会を機に、二松學舎大学で学んでみたいと考える高校生が、ひとりでも増えてくれたらと考えています。

(参加者 10名)

- 廣田 克己副会長
- 渡辺 和則学長
- 齋藤 裕(38回)・樋口 栄寛(39回)
- 齋藤 善明(48回)・齋藤 智子(48回)
- 佐藤 忠(49回)・今野 紀生(55回)
- 佐藤 順子(56回)・大坂 禎子(56回)

### 神奈川県支部 (支部総会)

支部長 平野 光治

平成25年8月18日(日)10時より、県立地球市民かながわプラザにて、第36回二松學舎松苓会神奈川県支部総会が開催されました。中川俊一郎副支部長の開会の辞に始まり、平野光治支部長の挨拶後、来賓の松苓会本部幹事長小林公雄様、東京支部副支部長星野優子様よりご丁寧なご挨拶、ご祝辞をいただきました。山口正樹県央地区長を議長に選出して、議事に入りました。

平成24年度事業報告、同年会計報告が小林孝彰事務局長から提案され、次いで片桐佐和子監査から監査報告があり、承認されました。小林孝彰事務局長により提案された平成25年度事業計画、同年予算案も大きな拍手で承認されました。続いて規約改正が承認され、「文

学歴史探訪」について前田明三浦地区長より紹介がありました。さらに、平野支部長より役員人事と本部の松苓会報、ホームページへの原稿協力、活用についての提案があり、承認されました。

また、東京支部女子会のまとめ役でもある星野優子東京支部副支部長より、「秋の1日 東京スカイツリーツアー」の紹介がありました。発展を続ける東京支部の姿を見せていただきました。

総会終了後「松苓会の歴史」とのご演題のもと、二松學舎松苓会本部幹事長小林公雄様の講演が行われました。資料に基づいての歴史検証の難しさや苦勞、先輩方の二松學舎大への深い思いを知ることが出来ました。楽しんで取り組まれている小林様の姿に接し、私自身の取り組みや思い不足を多いに反省した講演となりました。

講演終了後、参加者全員で記念撮影し、同プラザのレストランに席を移し、井上興正顧問による乾杯後、東京支部顧問木村正雄様より、ご挨拶、ご祝辞をいただきました。

その後、参加者全員より一言いただきました。和やかな雰囲気のもと



県立地球市民かながわプラザ

保田完次副支部長の閉会の辞で終了いたしました。  
総会参加者は次の通りです。  
(敬称略)

■ 来賓

本部幹事長

小林 公雄 (38回)

東京支部監事

神河 秀春 (47回)

東京支部副支部長

星野 優子 (42回)

■ 講師

本部幹事長

小林 公雄 (38回)

■ 出席者

東京支部顧問

木村 正雄 (25回)

■ 神奈川県支部

顧問 井上 興正 (27回)

顧問 廣田 克己 (38回)

顧問 田中 憲明 (38回)

支 部 長 平野 光治 (40回)

副支部長 保田 完次 (41回)

副支部長 中川俊一郎 (43回)

幹事・監査 片桐佐和子 (57回)

事務局長 小林 孝彰 (38回)

三浦地区長 前田 明 (48回)

県央地区長 山口 正樹 (53回)

横浜地区委員 浅居美智子 (33回)

横浜委員 伊藤 文雄 (45回)

横浜委員 中安 文恵 (46回)

県央委員 佐藤 馨

(政修5回)

県央委員 保田 陽子 (39回)

県央委員 藤平 翔 (80回)

北海道支部 (支部総会)

支部長 増井 義昭

今年の夏は、札幌らしいと言うか、北海道らしいと言うべきか、過ごしやすい日々が続きました。昔の人が言う通り、「いくら暑くてもお盆迄」、の言葉通りで終わろうとしております。

北海道支部総会が、8月24日午後5時30分より、札幌すすきのに有ります海の幸を売りとする「シーマーケット」にてとり行われました。出席者は9名と、最近伸び悩む人数にての開催でした。前期の決算報告、新年度の予算案とが、山崎事務局長より説明が有り、審議の結果、全ての了解を得る事が出来ました事は、出席者皆様の御協力と感謝いたしております。

今年度は本部よりの来賓も無く、内輪だけの会となりました。それはそれで又、賑々しく、北海道弁も多発して見事なもので有ります。そこで多くの話題の中から、二三の題目を記して見ますと、  
(一) 山崎事務局長の病気についての質問及び説明。  
現在2つの大きな病を抱えているとの話が有り、全員で励ましの言葉を贈る。

(二) 大学は九段に土地を又買う様だが大丈夫なのか。  
大学機能を九段に集約中で有り、

収容人数から言っても建物はまだまだ手狭であります。



札幌市・シーマーケットにて

二松學舎として、私立大学として文学部の灯を守る為にも必要な事との説明に納得と言った所であります。  
(三) 松苓会支部運営助成金について、

大学からの指示により、助成金の使い方に厳しさが増した事を事務局長より説明が有り一同意外さを表わしながら聞き入る。

この様に、会員、松苓会、そして大学の近況を全員で話し合い、時を過ごすのを楽しんでおります。その中で特筆と言うわけでも有りませんが、今の日本と中国を考える時、昔の中国は何処へ行ったのかと、文化、思想からの話が多く飛び出すあたりが、二松學舎なのかなと思っております。

これから秋本番を迎え、支部分会の集まりが始まります。道南、道東、そして私も記憶が定かでない所の道北分会が10年振りに復活すると言う嬉しい話題も飛び込んで来ております。

全国の松苓会の皆様お元気ですか、我々北海道支部会員一同、広い北国の大地に我が夢を託して元気に頑張っております。

世界で活躍する仲間とその絆 — 日中の架け橋となる表敬訪問 —

五月三十日、中国の調味料「太太楽」の生産販売で有名な、上海東錦グループ創業者、現在は総裁を勤める、中国経済界で著名な榮耀中・錢元芬夫妻が、三十八回生の田辺芳夫・和子夫妻の案内で本学を表敬訪問した。

当日は渡辺和則学長をはじめ、吉崎一衛副学長（三十五回生）、山崎正伸副学長・学務局長（四十一回生）と会食し、世界における本学の役割にはじまり、これからの日中友好について、和やかで実りある楽しい一時となった。

さて、この表敬訪問の実現に至った経緯は、「二松學舎大学中国語文研究会」一九七〇年卒業同期会の上海市開催からであった。

五月三〜六日に、参加者（斎藤美智子・酒井淳吉・瀬川龍夫妻・田辺和子・田邊芳夫・高橋誠・土田貞利夫妻・中川妙子・初田まり子・益本



中洲師肖像画前での記念写真



上海での記念撮影



新宿区・鮎忠にて

い出話に花を咲かせる小集団があちこちに見られた。そこには『二松學舎大学』の看板を肩に背負い、他大学の選手としてのぎを削った青春時代を鮮やかに映し出す姿があった。上は七十二歳から下は三十歳という年齢差がありながら、空手、剣道を通して培われた精神が脈々と息づいている事を再認識させられたひとときであった。（井上 和男）

英昭・吉田均夫妻）十四名が、上海の地で同期の絆を深めた。この同期会を全面的に支援したが、本学卒業後、上海市を拠点として田辺通商株式会社を起業し、現在は会長に就任している田辺芳夫氏とその妻、和子氏だった。その折、榮耀中・錢元芬夫妻が、田邊夫妻と親友であることから、語文研同期会の上海市開催にあたって、大円卓を囲む晩餐祝賀会を開いて下さった。その宴席でのこと、仲間との絆の幸せへの感謝と、熱き想いを胸に、二松學舎大学校歌斉唱をしたところ、その様子に榮夫妻は、応援の拍手と本学の素晴らしさを称えて、訪日の折には本学に行きたいと述べた。

世界で活躍する卒業生と、その仲間との繋がりが結んだ、日中の架け橋となる表敬訪問であった。（酒井淳吉・原由来恵）

空手部・剣道部OB会総会

去る六月十五日（土）、二松學舎大学空手部・剣道部OB会（会長 大嶋 薫）が、新宿区神楽坂にある『鮎忠』にて開催された。二松學舎大学空手部・剣道部OB会は平成二十年八月に再結成され、以後毎年開催され今年で六回目を迎える。それまでも非公式な形で二松學舎大学剣道部OB会として不定期に何度か開催されたが、現在は正式に役員を決め毎年総会が開催されている。

総会は、会長挨拶、参加者紹介、二十四年度決算報告、二十五年度事業計画の順に進められた。昨年までは、おおよそ十二、三名の出席者であったが、若い層への積極的な働き掛けが功を奏し今年度は二十二名も

の参加者を得るに至った。現役部員二名も加わりその後の懇親会は大いに盛り上がった。学生時代のような固苦しさはなく和気藹々とした雰囲気の中で当時の出来事を回想し、思

レーシングスキーサークルVOGEL 創設20周年記念祝賀会

VOGELでは、毎年二月に、在学生が「卒業生との交流スキー大会」を開催し、卒業生との親睦を図っているが、周年行事は初めての事で、卒業生が中心となって企画し、創部時の思い出を振り返りながら、和やかな雰囲気の中で、在学生と交流を深めた。



九段1号館13階ラウンジにて

日頃の活動では、練習や親睦のみならず、様々な地域活動やボランティアにも積極的に参加し、部員の人間の成長にも力を入れている。また、スキー大会でも上位の成績を収め、松苓会より、課外活動助成金を受賞するなどの活躍をしているのが大きな特徴である。

今後、在学生と卒業生の絆を深め、あつていくことを約束して閉会した。（助川 忠弘）

# 受賞おめでとう

今年度、文学部72回卒業の二人の松苓会員が、「江戸川乱歩賞」と「日本ファンタジーノベル大賞」という大きな賞を受賞しました。

「江戸川乱歩賞」は、ご存知のとおりその規模の大きさや格式の高さ、受賞者の活躍等でミステリー作家の登竜門です。「日本ファンタジーノベル大賞」も、大人も楽しめるファンタジー文学の新人発掘に大きな役割を果たしてきた賞で、様々な作家が巣立っています。

二松學舎大学ホームページに、二人の記事について掲載されましたので、松苓会報でも一部抜粋して紹介します。

## 竹吉 優輔さん

(文学部72回卒)

本学の卒業生、竹吉優輔さん(文学部国文学科72回卒業)が「第59回江戸川乱歩賞」を受賞しました。受賞作は「襲名犯」。

竹吉さんは、取手市出身で二松學舎大学を卒業後、東洋大学大学院へ進み、文学研究科博士前期課程を修了。現在は図書館の司書として勤務する傍ら執筆活動を行っています。

同賞は、江戸川乱歩の寄付をもとに1955年から始まり、ミステリー作家の登竜門ともいえる賞

で、東野圭吾等人気作家を多数輩出しています。

竹吉優輔さんに講談社で



インタビューをさせていただきました。

小さな頃から物語を読み、創作していたという竹吉さんは、長い間、「いつか小説家になるのかな」と漠然と思っていたそうです。そんな漠然とした夢を現実的に考え始めたのは、二松學舎大学で出会った友人に触発され、作品を「応募」するとういう意識を持ち始めたこの頃からだったとのこと。

自分の小説で表現したいことは、という問いかけに、「人間の立ち上る意志を表現したいです。作品の中で、登場人物がどう変わっていくかを見てほしい」と語ってくれました。

インタビューの間中、ニコニコと穏やかな表情で答えてくれた竹吉さん。ミステリアスな内容の作品とは対象的な優しい笑顔がとても魅力的でした。

受賞を記念して、渡辺和則学長、江藤茂博文学部長、竹吉さんによる

鼎談記事を、9月6日版「茨城新聞」に掲載しました。

この鼎談で、竹吉さんは、受賞作『襲名犯』の執筆について、二松學舎大学の魅力、在学中の思い出などを語ってくださいました。

鼎談の最後に、二松學舎の在学生を含めた若い世代へのメッセージもいただきました。

たくさん悩むことは時間の無駄のように思えてしまうときもあります。悩むことが後に糧になる時って絶対あると思います。特に、学生の時は思いつ切り悩むことができると思うので、自分の友人や家族のことでもいいし、あるいは、世界平和のことでもいいし、人間はどう生きる

## 古谷田 奈月さん

(文学部72回卒)

平成25年7月30日、第25回「日本ファンタジーノベル大賞」の選考会が、東京都中央区の読売新聞東京本社で開催され、荒俣宏氏、小谷真理氏、椎名誠氏、鈴木光司氏、萩尾望都氏の5人の選考委員による厳正なる審査の結果、全応募作644篇から、本学の卒業生、古谷田奈月さん

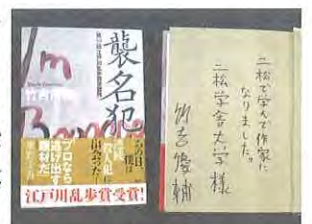
(文学部国文学科72回卒業)の作品「今年の贈り物」が「第25回日本ファンタジーノベル大



賞」を受賞しました。12月上旬に東京都内で授賞式が開かれます。受賞作「今年の贈り物」は、11月に新潮社から単行本として刊行される予定です。

かという哲学的なことでもいい。とにかく悩んで、考えて、答えは出なくてもいいと思います。それは後の大きな糧になると思いますので、悩むことを恐れずにたくさん悩んでください。

また、記事掲載日の9月6日には、東京・内幸町の帝国ホテルで「第59回江戸川乱歩賞」の授賞式が開かれました。正賞として贈られた江戸川乱歩像と受賞作『襲名犯』を手にも、壇上に立った竹吉さんのさわやかな笑顔が印象的でした。



◇日本ファンタジーノベル大賞は、読売新聞東京本社、清水建設が主催、新潮社が後援する文学賞で、大人も楽しめる新しいファンタジー文学の開拓と確立、そして力量ある新人作家の発掘と育成を目的として1989年に創設され、個性豊かな新人作家を多数排出しています。

※古谷田奈月さんの詳細は次号に掲載します。

## 平成二十四年度 課外活動助成費を受賞して



国際政治経済学部  
二年  
スキーサークル  
白石 一貴

この度はよませ全国学生スキーチャンピオンシップ新人戦での入賞により、助成費を頂けたことをとても嬉しく思います。

私はスキーを幼い頃に始め、中学生の頃は基礎スキーと呼ばれる分野にいましたが、技術の幅を広げようと思い、大学に入学してからは競技スキーを始めようと思っていました。しかし、競技スキーは基礎スキーと比較して用具も特殊なものが多く、気軽に始めることは難しいものだと思います。費用も用具代、トレーニング代、宿泊、交通費など多くかかってしまいます。

今日、スキー人口はバブル期と比較して大きく減少しています。用具の値段もなかなか下がりにくく、スキーを気軽にできない時代になってしまいました。

部員はスキーシーズン以外、アルバイトやトレーニング、勉強などで忙しく過ごしています。その中で徐々に大会で良い結果を出せるようになってきました。

今回、松苓会より助成費を頂けた事により、来シーズンの活動費に余

裕が生まれ、更に長い間スキートレーニングをできる機会を得ることができました。更に良い結果を出していけるように頑張りますので、応援をよろしくお願いします。



文学部  
国文学科 四年  
三枝 美幸

この度、東京城西地区北海道優勝大会において、個人法形競技で優勝したことにより、二松學舎松苓会より課外活動助成費を頂きました。本当にありがとうございます。

私が剣道を始めたのは二松學舎大学に入学してからです。武道の経験が全くなかった状態でしたが、監督、コーチ、先輩方からご指導を頂き、黒帯を取得することができました。黒帯を頂いた時は身の引き締まる思いでした。3年生からは、副将、統制として北海道の運営に関わり、後輩への指導の難しさや、部をまとめる大変さも経験しました。その中で、人に物事を正確に伝えること、試行錯誤してより良いやり方を目指すことが出来るようになりました。

3年生、4年生の時には全日本大

会にも出場させて頂きました。トップレベルの攻防を間近に見て、また一緒に参加するという、とても良い経験をする事ができました。8月にはフィンランドで行われる世界大会にも出場させて頂くことになりました。こちらは展開という団体種目での出場になります。



文学部  
中国文学科 二年  
狩野 翔太

この度、千葉県学生剣道大会で個人の部において第三位の成績を残したことにより、二松學舎松苓会より課外活動助成費を頂き心より感謝申し上げます。今回の受賞はとても名誉なことであり、大変嬉しく思います。

私は、幼いころから剣道をしており過去にも、団体戦にて東京都大会優勝や関東大会、全国大会にも出場してきました。しかし、県大会以上の大会での個人戦の入賞実績はなくこの度、全国大会出場校が多くレベルの高い千葉県学生剣道大会において初めて入賞することができました。これは二松學舎大学男子剣道部としては最高位の成績でもあり、ひとえに顧問の長谷川先生をはじめと

する諸先生方や家族、パートナー、部の仲間たちのおかげです。私は、国語の教員と剣道部の顧問を目指すべく二松學舎大学に入学しました。今までのように部活動だけに励むのではなく、今は教員を目指すべく文武両道に励んでいます。授業との兼ね合いもある中、決して恵まれた稽古環境とは言えませんが、今回の受賞を自信に二松學舎大学の代表として更なる高みを目指し、千葉県大会優勝や全国大会に出場できるように精進していきたいと思えます。



文学部  
中国文学科 三年  
沖田 真耶

この度、日本の書展や書教展での受賞により、二松學舎松苓会から助成費を頂き心より感謝申し上げます。

私は、小学校一年生から習字教室に通い始め、文字を書く楽しさに出会いました。県の硬筆展、書初め展に向けて時間を忘れるくらい練習を積み重ね、書に打ち込んでいたのを覚えています。そして、中学校卒業後は書の世界で生きていき、書と共に成長していきたいと強く思い、全国で唯一の書道科が設置されている大宮光陵高等学校に入学しました。そこで初めて、中国や日本の様々な

古典や作品に出会い感動と勇気をももらいました。私も、多くの方々に感動を与えられる作品を作り続けたいと思い、書道が盛んな二松學舎大学へ入学しました。書道以外に教職課程等の授業にも専念したいと考え書道部に所属していませんが、自己啓発のため現在も作品展へ出品しています。

今回、これまで続けてきた大好きな書道で助成費を頂くことが出来、大変嬉しく思います。また、私を一番近くで見守ってくれた家族をはじめ、書道の先生方など多くの皆様に感謝でいっぱいです。この受賞を誇りに思い、今後も自身を高めていけるよう、日々精進していきたいと思っています。



文学部  
中国文学科 四年  
新井 啓介

この度、昨年に引き続き産経国際書会での入賞により、二松學舎松苓会課外活動助成費を頂き心より感謝申し上げます。

私は、「大学で書道を勉強したい」という強い意志を持って二松學舎大学に入学しました。そして入学したからには、書道以外に、中国文学、思想、哲学、そして日本文学や西洋藝術など幅広く勉強し、数多の

知識や理論を勉強することを心に決め、四年間ひたむきに学んできました。しかし、教職課程の講座や就職活動により作品を作る時間はなくなってきました。更に、作品制作に取り組むには、文房四宝をはじめ、表装や出品料など費用がかかります。そのため、私はアルバイトなどとして書道展のために費用を充て日々錬成に励んできました。

私がこうして書道に熱中する環境にいるのは両親を始め、ご指導下さった大学、書塾の先生、先輩や友人など多くの方々のお陰だと感じております。そして論語に「賢を見ては斉しからんことを思え」とあるように私は将来師の背中を追いかけていきたいと考えております。

大学を卒業し、この春社会人になりましたが、ご恩を忘れることなく、二松學舎の卒業生、松苓会の一員としての誇りを持って日々精進していきたいと思えます。



文学部  
中国文学科 一年  
書道部  
長谷 晏里

この度は、第九十七回書教展において入賞し、松苓会より助成費を頂き、誠に感謝しております。

私は、小学校一年生の頃から、書道塾に通い始め、高校では、書道を

専門的に学べる高校に進学しました。そこで私は仮名書道に出会い、勉強するにつれて漢字とはまた違った、流麗で優雅な美しさに魅了されました。そして更に仮名書道を深く学びたいと思い、この二松學舎大学に入学しました。

大学では、書道部にも入部し、先生方をはじめ先輩方にもご指導をして頂き、恵まれた環境の中で書道を学ぶことができています。今回受賞できたのもひとえに皆様方のご支援のおかげだと思っています。更に、幼いころから、陰で支えてくれたる家族、今までご指導下さった先生、共に切磋琢磨してきた友人、すべての人に感謝したいと思えます。また今回の受賞で改めて「好きなことを深く学ぶことの幸せ」を実感することができました。

そして私は書の道に生きる者として、仮名書道の神髄に到達するべく、古典を重んじ、学び蓄え、自らの書の確立を目指して探究し続けていこうと思っています。今回のご恩にむくえるよう、今後とも精進してまいりたいと思えます。



文学部  
中国文学科 三年  
書道部  
長浦 彩香

この度は、読売書法展での入賞に

より助成費をいただくこととなり、心より感謝申し上げます。

小学校低学年の頃、書道教室に通う姉が綺麗な字を書いているのを見て、自分も格好よく綺麗な字を書けるようになりたいと思ったのが書道を始めたきっかけでした。続けているうちに学問としてきちんと書を学びたいと思うようになり、二松學舎で書道を専攻することに決めました。

これまで何度か書展に出品したことはありましたが、読売書法展ほど大きな書展に出品したことはなく、また、かなの作品を出したこともありませんでした。しかし、四年生になれば就職活動や卒業制作に時間を費やすことになりそうですので、このチャンス逃せばもう出せる機会はないかもしれないと考えた結果、力不足を自覚しながらも出品させていただきました。書法展で「秀逸」という身に余る賞をいただけたのも、先生のご指導あってこそのものであり、多大なるご支援に深謝申し上げます。

これまで書を学ぶにあたって支えてくれた家族や友人、そして松苓会の皆様への感謝を胸に、残り一年となった大学生活を悔いのないようにながら精進してまいりたいと思えます。

(学年は平成24年度のもの)

# 大学だより

大学が夏休みに入り、学生たちは様々な計画を立てています。サークルの中には、夏休みを利用して学外でも合宿などを通して活動しています。今回は、源川ゼミと国語教育研究会の活躍ぶりや、地方の新聞に掲載されていますので紹介します。

また、今後大学で開催される二つの行事をご紹介します。



児童の読書を大学生がサポートした

二松学舎大学の学生による読書感想文の書き方を指導する「寺子屋道場」

インサマーが10、11日に柏第三小学校で開か

れ、応募した16人の児童に

教育研究会主催の柏創生ライオンズクラブが共催した。

読書感想文の書き方は2日目に実施。16人を4つのグループに分け、それぞれに学生が2人以上ついて指導した。ひとつの図書を黙読したのち、グループごとの音読を実施。クイズで物語を振り返る遊び心も取り入れ、作文作りを手伝った。学生が課題図書を選定から指導法まで考案。低

## 夏休みの課題 大学生お手伝い

### 寺子屋インサマー開催



交流を深めた「写真」。学生たちは大学で良寛の詩歌などゆかりの同町の合宿は3年目。源川進教授(65)は長岡市「和島」出身のゼミ生ら。妻入りの家々が並ぶ通り沿いに約20人が町内で書道合宿を行った。妻入り会館では、学生と町民が書も水墨画の作品づくりを通して「芸術に触れるいい機会になった。学生さんが町民との交流を喜んでくれるのもうれしいね」と目を細めた。同大4年の田嶋優子さん(22)は「みんな気遣いあいさつしてくれ、人の温かさに触れた。卒業しても旅行で来た」と話していた。

▲新潟日報 2013年8月15日掲載

## 「『論語』の学校」案内

来る十一月九日(土)に、本学中国記念講堂において、平成二十五年「『論語』の学校」が開催される。この催しは、平成二十一年度からつづいており好評を博している。今年度の開催は次のとおり。

日時・会場  
11月9日(土)  
13:00~17:00(開場予定12:30)  
二松学舎大学九段1号館B2F  
中洲記念講堂  
入場無料(全席 自由先着順)  
演題・講師  
・論語と中国古典

守屋 洋氏 中国文学者  
・武者小路実篤と『論語』  
―理想主義者とリアリズム―  
瀧田 浩  
本学文学部国文学科教授

《関連企画》  
・論語入門・牧角 悦子  
本学文学部教授  
・素読実践…石川 忠久  
本学名誉教授

## 「教育研究大会」案内

二松学舎大学教育研究大会が、十月二十七日に行われる。ここ数年間は八月に行われていたが、今年は十月になった。開催は次のとおり。

期日  
平成二十五年十月二十七日(日)  
会場  
二松学舎大学九段校舎1号館  
研究大会概要

○開会式 十時  
第一部「講演会」十時二十分  
講師 本学名誉教授佐藤保先生  
演題 「論語の表現」  
昼食・休憩 十二時  
○第二部「校種別分科会」  
小学校国語 十三時三十分  
齋藤真紀子教諭  
中学校国語 桶川市立桶川西小  
梶原明日馨教諭  
千葉市立加曾利中  
大成浩二教諭  
高校国語 広島 修道高校  
十五時三十分  
○閉会式 十五時四十五分  
懇親会 十三階ラウンジ

柏市民新聞 2013年8月23日掲載▲



# 松苓会の歩み(1)

二松學舎松苓会が発足して、今年82年目を迎えた。本年度の総会において、平成28年の創立85周年に向けて、記念事業実行委員会を立ち上げ、記念式典や記念誌発行等の準備に取り組むことの発表があった。本誌においては、今号から何回かに分けて『松苓会の歩み』を掲載する。  
松苓会発足

松苓会が発足したのは、昭和6年である。二松學舎専門学校が昭和3年に設置され、その第1回生の卒業式が、昭和6年3月22日に挙行され、同窓会としての二松學舎専門学校松苓会が、同日に発足した。この間の経緯については、『二松學舎九十年史』（昭和42年発行）、『二松學舎百年史』（昭和52年発行）に記事が掲載されている。「松苓会」と



松苓会第一回総会（昭和六年）  
（『二松學舎百年史』から）

いう名称の由来等が記されているので、煩をいとわず、『百年史』からそれを抜粋する。

二松學舎専門学校、二松學舎大学、同附属高等学校の卒業生で組織されている同窓会は昭和6年に「二松學舎専門学校松苓会」として発足している。「松苓」という名は山田準元校長がつけたものであるが、機関誌「松苓」創刊号で山田準はつぎのように語っている。

## 松苓初輯に題して

会長 山田 準

我二松學舎は明治十年以来茲に五十五年の歴史を有つてゐるが、二松學舎専門学校はまだ三年の歴史をもつに過ぎない。本年三月は第一回卒業生を社会に送り出したが、第一回生と銘打たるる生徒諸子の意気は頗る緊張そのものであった。又、和衷協同の美風も養成され、従つて卒業生も相応に各方面に發展して一勢力を成さんとしつつあるは祝福すべき次第である。  
本校に入る者は先づ玄関前の忠孝碑が目につくであらう。碑

文の終りに三島中洲先生の詩が刻まれてゐる。  
如左。

松下伝<sub>レ</sub>経四十歳。  
一朝何<sub>レ</sub>幸浴<sub>レ</sub>恩惠。

垂<sub>レ</sub>枯老樹再<sub>レ</sub>繁榮。

多<sub>レ</sub>産<sub>レ</sub>茯苓<sub>レ</sub>医<sub>レ</sub>世<sub>レ</sub>弊。

此は大正天皇御即位と共に、多年御侍講申上げた三島先生に二松學舎費として御下賜金があったのを、先生が感激して作られた七絶である。当時枯死せんとした二松は再び繁榮し、専門学校が創設せられたと共に三たび繁榮した。そして本校より社会へと巣立つた卒業諸子は茯苓で、世弊を濟ふべく使命づけられた茯苓である。

茯苓は和名マツホドというて、松根に生ずる菌類である。

「松脂滴入<sub>レ</sub>地。千歳則<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>茯苓。」といはれ、又、長生を資け疾病を治すといはれ、漢医の宝薬である。卒業諸子は社会の中堅として、一世の木鐸として、時弊を医正し国家擁護する人中の茯苓でなくてはならぬ。余が敢えて松苓の字を本会に冠すべく助言した微意は茲にあるのである。

松脂が地に入つて茯苓となるには千年を要す。大器は晩成す。卒業諸子は持重真修して、山路にごろごろして居る松毬とならず、地中千年の茯苓とな

れ。是れ諸子が忠孝碑銘に負ふ所の使命である。

松苓会の第一回総会は、六年八月三十日午後一時から、専門学校第二教室で開催され、出席者は三十一名であった。母校側から山田会長、橘副会長、国分理事、池田、三島、柿山、岡田各教授が出席した。石川梅次郎、西陸三（第一部）、大塚軍三、小蘭国美（第二部）が委員であった。

## 初代会長は山田準校長

発足時の松苓会会則は、全17条からなり、その第4条の規定「会長一



「二松學舎専門学校松苓会會則」（昭和7年7月3日改正のもの）



「松苓」第1号  
 (「二松学舎百年史」から)

機関誌『松苓』は、現在のところ、第9号まで発行されたことが確認される。第1号は、昭和6年に発行されたものと思われるが、大学保存の資料を探しているが見つかっていない。第2号は昭和7年12月、第3号は昭和8年12月、第4号が昭和10年

機関誌『松苓』の発行

会の運営は、卒業生次毎に委員を選出し、その中から幹事を決め、総会の開催、機関誌の発行等にあたっている。機関誌『松苓』の編集兼発行人の代表者は石川梅次郎となっており、また昭和12年10月の二松學舎創立60周年及専門学校設立10周年記念式典では松苓会総代として石川梅次郎が祝辞を述べている。

名 母校長を推戴す」により、山田準校長が就任している。以後、昭和24年8月の会則改正までは、母校長が会長を務めていたことがわかる。(2代会長 那智佐伝 昭和18年4月。3代会長 塩田良平 昭和22年12月)。



「松苓」第2号~第4号  
 (第5号~第8号、第10号以下は所在不明)

6月にそれぞれ発行されている。第5号から第8号まではまだ現物を確認していない。第9号は昭和17年8月に発行されている。以後発行されたかどうか確認できない。以下に第2号と第9号の主な内容を掲載する。

第2号 (昭和7年12月)

冠頭の言/傑士河井継之助に何を学ぶか 山田 準/母校新舎長として子爵金子堅太郎氏を迎ふ/建国精神 橘 純一/日本書紀を漢文として読む 鳥 恒雄/「断金」第2回総会記事/二松學舎専門学校松苓会会則/昭和7年度委員/会員名簿

第9号 (昭和17年8月)

金子舎長を悼む 山田 準/古典を愛せよ 塩田良平/西澤道寛先生御逝去の報に接して 尾崎憲三/防人の心 八木 毅/母校の近況・会務報告・総会記事・会計報告・其後の移転及転職・広告二松後凋会現況・編集後記。(名簿は掲載されていない。編集後記を読むことがわかる。)

名称の変遷

「二松學舎専門学校松苓会」として発足した同窓会は、戦後専門学校が大学に移行すると名称を昭和24年8月に会則改正して「二松學舎大学松苓会」とした。さらに創立90周年に当たる昭和42年6月(改正会則の施行は4月に遡っている)には「二松學舎松苓会」に改称している。昭和24年の改正会則では正会員が「専門学校卒業生及び高等学校卒業生」となっており、また昭和42年改正会則では「専門学校・大学卒業生及び大学院修了者並びに附属の高等学校卒業生」となっている。附属高等学校が昭和23年4月に開校したこと、大学院が昭和41年に開設したことなどが反映されている。

松苓会史編纂資料提供のお願い

松苓会の歴史は、松苓会発足の昭

和6年からの専門学校時代は、機関誌『松苓』によって確認することができる。戦後の混乱期については資料が乏しい。昭和33年12月に創刊された『二松學舎大学新聞』には「松苓会だより」等として記事が記載されており、支部活動等松苓会の動きを確認することができる。二松學舎創立100周年特集号(第173号 昭和52年10月発行)では、松苓会の発足、松苓会支部及び同期会等の記事が2ページにわたって掲載されている。昭和62年12月には機関誌『二松學舎松苓会報』が発行され、以後この会報に松苓会の歩みが刻されることとなった。

さらに松苓会名簿には会則等の情報が掲載されており、資料として貴重であるが、未見のものが多い。特に専門学校時代や戦後の資料が欠けており収集する必要がある。松苓会では、創立85周年事業として資料を収集することとしましたので、会員の皆様に資料の提供をお願いしたい。



「会員名簿」  
 昭和17年7月(上)  
 昭和24年12月(下)

### 創立85周年記念事業 実行委員会の発足

8月31日開催の本年度第2回常任幹事会において、創立85周年記念事業実行委員会を立ち上げた。委員会の構成員は次のとおりである。

委員長 大地武雄（副会長）  
委員長 廣田克己（副会長）

委員 小林公雄（幹事長）

千葉 仁・新井喜義

手島茂樹・小林憲二

平野光治・井上和男

神河秀春・高柳幸雄

菅原義博・高橋映子

助川忠弘（以上常任幹事）

その他幹事から若干名。

事務局

佐藤 修

### 寄贈写真

二松學舎専門学校第十六回（昭和十八年四月入学、同二十年九月繰上卒業）の西田潤一郎氏のご子息から、戦時下の貴重な写真が寄贈されました。

今後も、貴重な写真を会報の編集に生かしていきたいと考えています。

また、二松學舎史編纂や松苓会史編纂のための資料（写真を含む）をご提供いただきたいと思います。よろしくお願いたします。



「特操出陣」靖国神社境内にて



「廠舎会員」  
昭和18年10月15日  
（後列左より）鷓飼、山内、正生  
（前列左より）三田、西田、城下、中村



生徒出陣  
昭和18年10月5日



「九州縣人会」二松學舎校門にて

# 神奈川 「文学散歩」の紹介

創立百三十五周年事業として、国際政治経済学部「都心で学ぼう！国際政治経済」に続いて、文学部国文学科が編集した、「神奈川文学散歩」が今年三月に新典社から発行されました。定価は税抜きで千二百円です。神奈川県支部の松苓会員八名の方もコラムを執筆しています。ぜひ一読ください。



## 訃報(三月以降)

ご冥福をお祈りいたします。

○野口養吉(専十七回卒)

三月十九日逝去(八十六歳)

元秋田県支部長

○奥井基繼(院修十四回卒)

四月七日逝去(七十八歳)

松苓会監事・本学名誉役員・本学後援会会長

○山本昇平(文四十回卒)

七月二日逝去(六十三歳)

静岡県支部長

○竹内実(専十五回卒)

七月三十日逝去(九十歳)

本学元非常勤講師・京都大学名誉教授

## 寄贈図書紹介

平成二十五年三月以降の寄贈図書は、次のとおりです。

○岡山古代地名探検 津山城下

○岡山古代地名探検 岡山城下

○岸元史明著 出版社 国文学研究所(二千元)

○浦河百話(発行 北海道浦河町)

○続浦河百話(発行 北海道浦河町)

高田則雄共著

○シルクロードの光彩 山田勝久著(笠間書院)

○日・中漢詩林そぞろ歩き

江日日新聞社(三千元)

○友朋詩鈔 佐藤美次著

他、線装本等古書多数を遺族の佐藤一紘氏より寄贈されました。

## ホームカミングデー(懇親会)のご案内

### 日時

平成25年11月2日(土)14:30~16:30

### 会場

九段校舎1号館 13階ラウンジ  
※学園祭の時期に開催しています。卒業生の作品展示会(書や写真など)も2日3日と展示しています。在学生の活動とともにご覧ください。卒業生がオーナーの商店、旅館等のパンフレット参加も募集しています。

## 寄付者芳名

平成二十五年三月一日から八月末日までにご寄付頂いた方のご芳名を掲載します。(敬称略)

ご協力に心より感謝し、厚く御礼も申し上げます。

10口(一口 千円)

末吉 榮三(専十二)

吉田幸一郎(文二十六)

## お願い

◎終身会費手続き

◎寄付金

よろしくご協力ください。

## 表紙写真

本学1号館階段を上って正門玄関に入ると、中洲像が皆様を迎えてくれます。今年度、創立者三島中洲の解説版が取り付けられました。中洲師の略歴や功績が簡潔に記されています。普段は地下通用門を利用していますが、本学お寄りの際はぜひご覧ください。

## 編集後記

2020年のオリンピック開催地が東京に決まった。母校の4号館が建設される。長期ビジョン「N' 2020プラン」の一環で、2015年度から使用される。若い卒業生二人が文学賞を射止めた。朗報が続く。飛躍の季節に入ったか。松苓会創立85周年記念事業実行委員会が発足した。松苓会の周年記念事業は発足以来初のことである。松苓会もその歴史に一区切りつけて、次の段階に踏み出す。

二松學舎  
松苓会報  
No.49

創刊 昭和62年12月1日  
発行 平成25年10月1日  
編集 二松學舎松苓会  
住所 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16  
電話 03-3261-7408  
振替口座 00180-5-160343(郵便局払込取扱票)  
印刷 (株)サンセイ